



日産自動車（株）



日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」を 推進し、災害時に電気自動車を活用した 電力供給を実施

電気自動車（EV）の普及は、社会や人々の生活をも変える可能性を秘めています。「いつもの時」はエコな移動手段や家庭の電源として、「もしもの時」は走る蓄電池として被災地を支援する電源となります。日産は、EVを活用した日本電動化アクション 「ブルー・スイッチ」 を推進し、地域と共に社会の課題解決に取り組んでいます。

2020年1月には、横浜市とEVを活用した「災害連携協定」を締結。災害発生時には、日産と市内の日産販売店が連携し、EVを各区役所に貸与するほか、西区のグローバル本社では、帰宅困難者にEVを活用した電力供給を行います。EVの蓄電機能を活用することで災害時の貴重な電源の確保が可能となります。